

交通案内



東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅下車 徒歩7分
 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅下車 徒歩8分
 都営バス「大塚二丁目」停留所より 徒歩1分



お茶の水女子大学

OVERVIEW 2021

お茶の水女子大学の歴史は、1875年に御茶ノ水（現東京都文京区湯島）の地に、東京女子師範学校が設立されたことに始まります。設立以降、東京女子大学長となる安井てつ、日本初の女性理学博士の保井コノ、国際的に活躍した女性科学者の湯浅年子など、優秀な研究者や教育者を数多く輩出してきました。

1949年、戦後の学制改革によりお茶の水女子大学が発足。翌年、文教育学部、理学部、家政学部（現在の生活科学部）の3学部をもつ新制の女子総合大学となりました。その後、1963年から修士課程を、1976年には博士課程を設置するなど、教育・研究環境を整えながら、たゆみない発展と進歩を遂げてきました。

2015年にお茶の水女子大学は、創立140周年を迎えました。これまでも、これからも時代を牽引する女子教育のパイオニアとして、お茶の水女子大学は歩み続けます。

1874年	東京に官立の女子師範学校設立を布達	
1875年	「御茶ノ水」(現・東京都文京区湯島1丁目)の地に東京女子師範学校開校	
1885年	東京女子師範学校は東京師範学校と合併し、東京師範学校女子部となる	
1886年	東京師範学校は高等師範学校となり、高等師範学校女子部となる	
1890年	高等師範学校から女子部を分離し、女子高等師範学校となる	
1908年	奈良女子高等師範学校の設置に伴い、東京女子高等師範学校と改称	大学正門
1923年	関東大震災のため、校舎焼失	
1936年	現在地（東京都文京区大塚2丁目）の新校舎に移転完了	
1949年	「お茶の水女子大学」(文学部・理家政学部)設置	
1950年	文学部を文教育学部に、理家政学部を理学部及び家政学部に変更	
1963年	大学院家政学研究科(修士課程)を設置	
1964年	大学院理学研究科(修士課程)を設置	
1966年	大学院人文科学研究科(修士課程)を設置	
1976年	大学院人間文化研究科(博士課程)を設置	
1992年	家政学部を生活科学部に改組	大学講堂(徽音堂)
1997年	大学院人文科学・理学・家政学研究科(修士課程)を大学院人間文化研究科(博士前期課程)に改組	
2004年	国立大学法人法により、国立大学法人お茶の水女子大学に移行	
2007年	大学院人間文化研究科を大学院人間文化創成科学研究科に改組	



震災前本校全景

お茶の水女子大学は、女性のための日本初の官立の高等教育機関として1875年に設立され、145年余の歴史を刻んでいます。その間、日本における女子教育の先達として道を切り拓き、数多くの卒業生が、学術・研究、教育、産業、行政、報道など、様々な領域で優れた実績を挙げ、国の内外で活躍しています。

2004年の国立大学法人化に際して、お茶の水女子大学では「お茶の水女子大学は学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」というミッションを掲げました。そして、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを目指し、学びたくても学ぶことのできない開発途上国の女性たちをも含めて、国籍や年齢を問わず女性たちの成長と資質能力の開発を支援する活動を開始して、現在に至っています。

大学はつねに社会とともにあり、社会の要請に応える姿勢が求められます。近年は今まで以上に、女性の社会的活躍が必要とされ、豊かな専門知識をもち、グローバルな視点からリーダーシップを発揮する女性が求められています。本学では、高度で先端的な研究を行うとともに男女共同参画社会の実現、グローバル化する社会で活躍する女性リーダーの育成に努めてまいりました。また、理工系分野における女性の活躍が求められる社会的要請に応じて、文理融合リベラルアーツ教育、AI・データサイエンス教育などにも力を入れています。

本学で学ぶ人々には、本学の自由で一人ひとりの可能性を尊重する学風の中で高い専門的知識、一歩前に入る勇氣、そして他者とともに協働する力を身に付けて、多くの先輩たちのように、自分の信じる道を力強く歩み、社会をけん引する人材に育っていただきたいと願っています。

お茶の水女子大学は、本学で学ぶ人々がそれぞれの夢を実現し、豊かな未来を創造することができるよう、また、周囲の人々や社会に対して未来への希望と勇氣を呼び起こすことのできる活躍を続けていけるよう、教育・研究の向上と改革を図り、将来にわたって、特色ある高等教育機関としての役割を果たしてまいります。

国立大学法人お茶の水女子大学長

佐々木泰子



お茶の水女子大学のミッション・ビジョン・戦略

国境を越えた研究と教育文化の創造と、
女性たちの夢の実現を支援するための学びの場を提供し、
時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成する

上記は、国立の女子大学として、お茶の水女子大学が掲げるミッションです。本ミッションを達成するために中期目標期間（第3期：平成28年度～令和3年度）において、下記のビジョンを掲げ、教育・研究・社会貢献等の様々な戦略的取組を推進してまいります。

（ビジョン1）

「高度な専門知識」「適切に判断できる見識」
「多様なあり方に対して寛容」である
グローバル女性リーダーを育成

（ビジョン2）

人が一生を通じて健康で心豊かに
過ごすための研究・開発による活力ある
社会環境の創出



教育改革（高度な専門的知識を有したグローバル女性リーダーの育成）

学士・修士一貫の学修トラックの導入

現行の21世紀型文理融合リベラルアーツ、複数プログラム選択履修制度とともに、学部・大学院一貫教育により、グローバル女性リーダーを育成。

理工系女性リーダーの育成

イノベーションを創出し続ける女性リーダーを育成するため大学院課程に5年一貫制の教育プログラムを導入。また女子大学初の大学院生活工学共同専攻を設置。

教育の質保証システム

教学比較 IR の構築、高校・大学・大学院一貫の学修ポートフォリオの開発等。

研究推進（強み・特色ある分野における国際的教育研究拠点形成）

グローバル女性リーダー育成研究機構

女性のリーダーシップ、男女共同参画社会の実現に貢献する教育研究により、国際的に活躍する女性リーダーを育成。

ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

「こころ」と「からだ」の両側面から人間の発達段階に即した心身の健康と生活環境の向上を意図したイノベーションを創出。

国際化（世界の大学との交流促進と学生の派遣・受入の推進）

グローバル化のための教育環境の整備

海外協定校の拡大、四学期制の改善等の学事暦の柔軟化、外国語による授業の拡充、英語で学位が取得可能なコースの設置。

国際社会への貢献

開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援事業、平和構築・国際協力のための人材育成を実施。

大学運営（「オールお茶の水」体制による機能の強化）

財政基盤の確保

「未来開拓基金」の設置。外部資金獲得に向けた積極的取組の推進。

キャンパスの機能強化

「キャンパスマスタープラン」に基づく魅力あるキャンパスの実現。
国際交流留学生プラザによる国際交流や社会連携などの拠点形成。

社会貢献（教育研究成果の活用による社会貢献）

社会人教育の推進

社会人向け講座（女性ビジネスリーダー育成塾・德音塾）を開講し、女性のキャリアアップ、上位職者の増加を支援。

理科教育支援

小・中・高校教員への理科教員研修、児童・生徒への理科出前授業、一般社会人への公開講座を実施。理系女子学生数増加に向けた取組を推進。

乳幼児教育、保育サービスの提供

待機児童の解消とともに、本学の幼児教育・保育に関する教育研究活動の実践と成果を社会へ還元するため文京区と連携し、保育所型「認定こども園」を開園。

被災地支援

災害時にも途切れない教育システムを構築し、被災地に理科教育コンテンツを配布・展開できるシステムを構築。

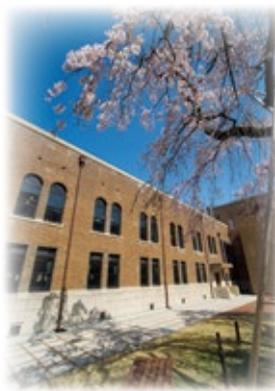
知識・見識・寛容さを備えた女性を創出する お茶の水女子大学独自の学士課程プログラム

学士課程では、創造性と実践性を備えた専門基礎力を持つ人材を育成しています。教養教育課程では、自然・人文・社会領域の総合的理解を深める「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を、専門教育課程では学生主体の「複数プログラム選択履修制度」を導入し、21世紀の社会に必要とされる教養と専門性を備え、自主自立の精神に富んだ女性リーダーを育成しています。また、世界を舞台に活躍できる人材の育成にも力を入れています。

学部一覧

(入学定員・収容定員については2020年度、()は第3年次編入学定員で外数。現員については2020年5月1日現在)

	入学定員	収容定員	現員
文教育学部	202 (10)	808 (20)	901
人文科学科	55	220	246
言語文化学科	80	320	365
人間社会科学科	40	160	174
芸術・表現行動学科	27	108	116
グローバル文化学環			
理学部	125 (10)	500 (20)	555
数学科	20	80	92
物理学科	20	80	88
化学科	20	80	89
生物学科	25	100	108
情報科学科	40	160	178
生活科学部	125 (10)	500 (20)	566
食物栄養学科	36	144	151
人間・環境科学科	24	96	105
人間生活学科	39	156	221
心理学科	26	104	89



2019年度に「文理融合AI・データサイエンスセンター」を設立

AI(人工知能)人材およびデータサイエンス人材の需要の急激な拡大にともない、大学でのAIおよびデータサイエンスの研究教育が期待されています。本学では、2019年に「文理融合AI・データサイエンスセンター」を設立し、AIおよびデータサイエンスに関する教育部門・研究部門を設けました。

21世紀型文理融合リベラルアーツ

教養教育の一環として、主として1~2年生が履修するプログラムで、現代世界を読み解く「鍵」となる5つのテーマから組み立てられています。体系的に学ぶことで、高度な専門教育を支え、使いこなすための発信・交渉能力と領域横断的な広い視野、変化に対応する判断力を身につけ、文系・理系の領域を横断した視野を獲得し、社会を生き抜く支えとなり得る基礎的な能力を養います。

複数プログラム選択履修制度

高度な専門性を養い、その能力を発揮できる知識と技能を体系的に学べる専門教育課程です。学生一人ひとりが自分の目的に合わせ、より主体的な学修プログラムを構築できます。主・強化・副・学際 of 4つのプログラムを組み合わせるこの制度では、専門を深めるだけでなく、異なる部門へ発展させることも、また、学際領域へ踏み込むこともできます。

学士・修士一貫教育トラック

社会の要請に応えることのできる教養、専門的知識に基づいた高度な思考力を養成するために、2017年度より、学士・修士一貫教育トラック(学士課程と大学院博士前期課程を接続させたカリキュラム)による教育を一部の学科で開始しました。入学後~学部2年次には一貫教育トラックについてガイダンスを実施し、学部3年次には関心や意欲のある学生を履修学生として募集・選考します。一貫教育トラックの履修学生として選抜された学生は、学士課程在学中に博士前期課程の科目を積極的に先取り履修します。博士前期課程への進学を前提とする学生にとっては、6年間の在学期間をより有効に過ごすことができるメリットがあります。

「女性の力を、もっと世界に。」

グローバルな視野を持って思考し、国内外で活躍できる女性を輩出するため、発信力向上を目指す外国語教育「ACT(Advanced Communication Training)プログラム」や、社会に開かれた学際的な科目や実習・研修科目を用意し、国際的視野や異文化理解能力、コミュニケーション能力を育てるためのカリキュラムとなっています。さらに、大学をあげて海外留学を推奨し、海外でのフィールドワークやインターンシップを拡充しています。また、各種ワークショップや海外からの留学生とお茶大生が共に学ぶサマープログラムを開催しています。

高い専門性と俯瞰的視野を育む大学院教育

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科は、高度な先端的・学際的な研究を行うために必要な創造的能力を養うため、文系・理系という専門領域を越えて新たな研究分野を積極的に開拓しています。また、設立以来、女性研究者の育成に力を注ぎ、数多くの優れた女性研究者を輩出してきました。

今後も、本学で学ぶ学生たちを俯瞰的視野と独創力を備え、広くグローバルに活躍するリーダーへと導くため、博士前期課程・後期課程の一貫した教育体制も視野に入れ、様々な教育・研究プロジェクトを取り入れた大学院教育を推進していきます。

人間文化創成科学研究科

博士前期課程	比較社会文化学専攻 (入学定員 60名)	日本語日本文学コース／アジア言語文化学コース 英語圏・仏語圏言語文化学コース／日本語教育コース 思想文化学コース／歴史文化学コース／生活文化学コース 舞踊・表現行動学コース／音楽表現学コース
	人間発達科学専攻 (入学定員 27名)	教育科学コース／心理学コース／発達臨床心理学コース 応用社会学コース／保育・児童学コース
	ジェンダー社会学専攻 (入学定員 18名)	
	ライフサイエンス専攻 (入学定員 40名)	生命科学コース／食品栄養科学コース 遺伝カウンセリングコース
	理学専攻 (入学定員 70名)	数学コース／物理科学コース 化学・生物化学コース／情報科学コース
	生活工学共同専攻 (入学定員 7名)	
博士後期課程	比較社会文化学専攻 (入学定員 27名)	国際日本学領域／言語文化論領域／比較社会論領域 表象芸術論領域
	人間発達科学専攻 (入学定員 14名)	教育科学領域／心理学領域／発達臨床心理学領域 社会学・社会政策領域／保育・児童学領域
	ジェンダー学際研究専攻 (入学定員 4名)	ジェンダー論領域
	ライフサイエンス専攻 (入学定員 13名)	生命科学領域／食品栄養科学領域 遺伝カウンセリング領域
	理学専攻 (入学定員 13名)	数学領域／物理科学領域 化学・生物化学領域／情報科学領域
	生活工学共同専攻 (入学定員 2名)	

大学院での研究・教育支援体制

充実した各種奨学金制度を備えています。また、附属保育所「いずみナーサリー」を設置して、研究・教育を支援しています。

カリキュラムにおいては、国際学会での発表等を念頭に英語アカデミック・ライティング、プレゼンテーションや、キャリア開発、グローバル女性リーダー育成などの科目も開講しています。さらにキャリア支援制度として、リサーチフェロー、研究院研究員制度、みがかずば研究員など、研究を継続できる環境も整備されています。

博士前期課程・後期課程に生活工学共同専攻を設置

現在、理工系女性人材は極めて不足している状況にあり、高度な理工系専門知識を有する女性人材の育成が喫緊の課題となっています。お茶の水女子大学と奈良女子大学は、共同で生活工学共同専攻を2016年度に設置しました。安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる優れた理系女性の人材を育成します。「IoT 型リアルタイム歩行モニタリングデバイスの開発と健康サポートサービスの展開」事業等、企業との共同開発研究を進めています。

特色ある教育プログラム

副専攻プログラム

領域横断的なプログラムであり、男女共同参画社会の実現に資する能力の育成を目的とした男女共同参画リソース・プログラム、児童生徒の観察・実験や自由研究の指導、教材開発、教員研修を実施できる総合的な理系人材を養成するコア・サイエンス・ティーチャープログラム、多様な日本文化と日本的思维方法についての深く広い理解を促すための日本文化論プログラム、学際的基盤に立った食に関する幅広い専門性と実践力を持つ高度専門家の早期育成を目指すSHOKUIKUプログラム、ライフサイエンス専攻または理学専攻の各コースの学生を対象とした博士前期・後期課程5年一貫制のグローバル理工学副専攻プログラムが履修できます。

キャリア副専攻

博士前期課程修了後に就職を希望する学生を対象とし、よりよい教育を目指して生涯にわたって学び続けることのできる教師の育成を目的としたキャリア副専攻【教員】、行政に携わるための幅広い実務的な知識と視点、倫理観を持ち、公の立場として社会に貢献する人材の輩出を目指すキャリア副専攻【公務員】、産学官協創によるイノベーション・エコシステムを構築し、社会をリードしていく人材の育成を目指すキャリア副専攻【産学連携】、消費者行政や消費者相談など、消費者問題の解決に尽力する人材を養成することを目的としたキャリア副専攻【消費者科学】の4つが設置されています。

実社会で活躍できる実践力・就業力を身につける 独自のキャリアデザインプログラム

〔キャリア教育〕

大学での学修を深め、キャリアデザインの礎をつくるために不可欠な3分野のコンピテンシー（知識や技能を組み合わせる成果を生む包括的能力）を育成。実社会から提起される具体的な問題を取り扱う課題解決型学習が多数用意され、社会を見わたす「窓」の役目を果たします。

3分野のコンピテンシー



双方向的活動
コミュニケーション力、知性・思考力、ICT活用能力

自律的活動
自己管理能力、計画実行力、社会性

協働的活動
関係構築力、連携力、統率力

〔就職支援〕

学生・キャリア支援センターでは厳しい就職環境に対応するため、学生の進路・就職支援に全学的に取り組んでいます。

学生の多様なニーズに応えるため、就職ガイダンス、OG 懇談会、合同説明会、ワークショップなど、各種の就職支援行事を実施しているほか、専門のキャリアアドバイザーが、就職活動を行うみなさんの様々な相談に応じています。



2019年度就職実績

	卒業者数	進学者数 (率)	就職希望者数 (率)	就職者数 (率)	その他 (率)
文教育学部	227	31 (14%)	173 (76%)	168 (97%)	28 (12%)
理学部	127	83 (65%)	39 (31%)	37 (95%)	7 (6%)
生活科学部	131	46 (35%)	79 (60%)	78 (99%)	7 (5%)
計	485	160 (33%)	291 (60%)	283 (97%)	42 (9%)

経済的支援及び修学奨励のための 様々な大学独自の奨学金

お茶の水女子大学では、学生の経済的支援及び修学奨励の一環として、様々な奨学金制度があります。

すべて給付型の奨学金で、入学前に申請できる予約型奨学金をはじめ、各研究分野において成績顕著な者に贈られる奨学金があります。

(2021年4月現在)

	全学			学科・専攻等		
	基金の名称	奨学金の額	授与枠	基金の名称	奨学金の額	授与枠
学部生	みがかずば奨学金 (予約型)	600,000円 (1年あたり300,000円)	20名	保井・黒田奨学基金	30,000円	5名
	学部生成績優秀者奨学金	100,000円	25名	被服学奨学基金	100,000円	制限なし
	桜蔭会奨学金	200,000円	4名	食物学奨学基金	100,000円	若干名
	新寮レジデント・アシスタント奨学金 (SCC-RA奨学金)	240,000円 (1月あたり20,000円)	4名	家庭経営学奨学基金	100,000円	1~2名
	大学院生 (博士後期課程) 奨学基金 (予約型)	300,000円 (1年あたり100,000円)	10名	大学院研究科奨学基金	100,000円	2名
大学院生	桜蔭会研究奨励賞 (予約型)	200,000円 (1年あたり100,000円)	20名	池田摩耶子記念奨学基金	200,000円	若干名
	錦織チサ工奨学基金 (予約型)	500,000円	2名	池田重記念奨学基金	200,000円	若干名
	高田弘子奨学基金 (予約型)	500,000円	前期1名 後期1名	湯浅年子記念特別研究員奨学基金	前期 800ユーロ 後期 1,100ユーロ	1名
	KSP-SP 奨学基金 (予約型)	500,000円 (1年あたり250,000円)	3名	数学奨学基金	100,000円	1名
	創立120周年記念事業国際交流振興基金 (海外留学支援・アジア女性研究者支援)	2,000,000円を限度	(海外) 1~2名 (アジア) 若干名	生物学優秀学生賞奨学基金	50,000円	1名
	海外留学特別奨学金	本学の授業料の年額又は年額の2分の1に相当する額が上限	若干名	グローバル文化学環奨学基金	20,000円	1~2名
	創立140周年記念海外留学支援奨学基金	50,000円	100名	化学科(宮島直美)奨学基金	100,000円	理2・前2・後1名
	富永ふみ奨学金	300,000円	1名	生物学科(小沼英子)奨学基金	500,000円を限度	1名
	アパナード奨学基金 (予約型)	学部生1,000,000円 (1年あたり250,000円) 大学院生500,000円 (1年あたり250,000円)	学部 3名 大学院 2名	竹村和子海外研修奨学基金	1年目 2,000,000円 2年目 1,000,000円	1名
	育児支援奨学金	原則、保育料の半額	制限なし	竹村和子奨学基金	50,000円	1名
			菅聡子奨学基金	250,000円	1~2名	
			矢部吉禎・矢部愛子奨学基金	500,000円	植物3・数学3名	
			自然地理学奨学基金	国内調査 20,000円又は 海外調査 40,000円	3名	

強み・特色ある分野を融合した戦略的組織による研究推進

本学は第3期中期目標・中期計画に掲げるビジョン実現に向けて、戦略的研究組織として「グローバル女性リーダー育成研究機構」及び「ヒューマンライフィノベーション開発研究機構」を設置しました。両研究機構は、それぞれ2つの研究所から構成され、特色ある研究を推進しています。

グローバル女性リーダー育成研究機構

グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点形成

国内外から女性研究者を招聘し、女性のリーダーシップ育成と男女共同参画社会の実現に貢献する研究教育を通じて、世界で活躍できる女性リーダーを育成します。

国際的ネットワークの拡大

- 重点研究領域で実績のある外国人女性研究者を招聘し、研究教育力を抜本的に強化
- 国内外の機関との連携を拡大し、日本と世界を繋ぐ存在に

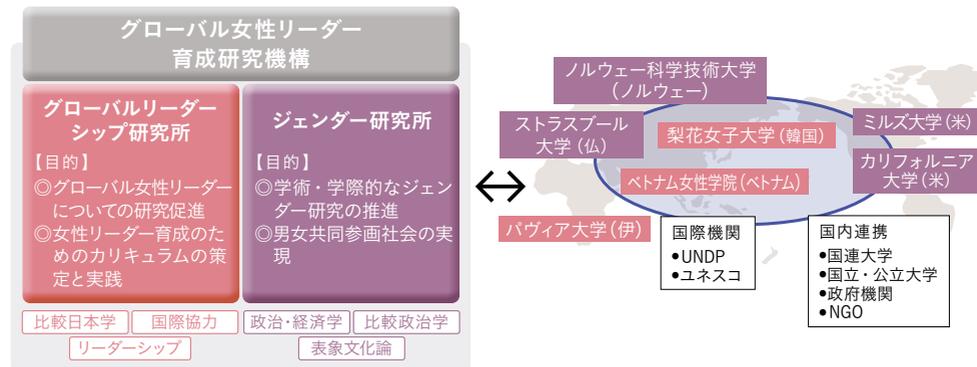
新しいグローバル女性リーダー像の発信

- 重点研究領域に関する国際共同研究の推進
- 「アジアにおける新たなリーダーシップ像」の提案
- 「新しいグローバル女性リーダーシップ論」の構築

リーダーシップ教育の実践

- 「リーダーシップ教育の効果検証指標」を開発し、教育実践にフィードバック

国内外の研究機関等との共同研究等を展開



未来起点ゼミ

株式会社ブリヂストンと本学は、大学生・大学院生・附属高校生を対象とする社会連携講座「未来起点ゼミ」を2019年度より開講しました。変化の早い時代の中で、未来起点(バックキャストिंग)で考え、未来を創る思考力・表現力・実行力を身につけた女性リーダーの創出を目指しています。



ヒューマンライフィノベーション開発研究機構

健康科学・人間発達科学分野における国際的教育研究拠点形成

人が一生を通じて健康で心豊かに過ごし、生活環境を向上させるイノベーションを創出し、健やかで活力ある日本を作るとともに、未来世代への負担軽減を図るための成果を社会に向けて発信します。

乳幼児から高齢者までの心身の健康を維持・向上させるための研究・開発

- 栄養摂取と食習慣・運動による健康の向上に資する研究・開発
- 炎症性疾患、ロコモティブシンドロームの予防・改善

事業内容

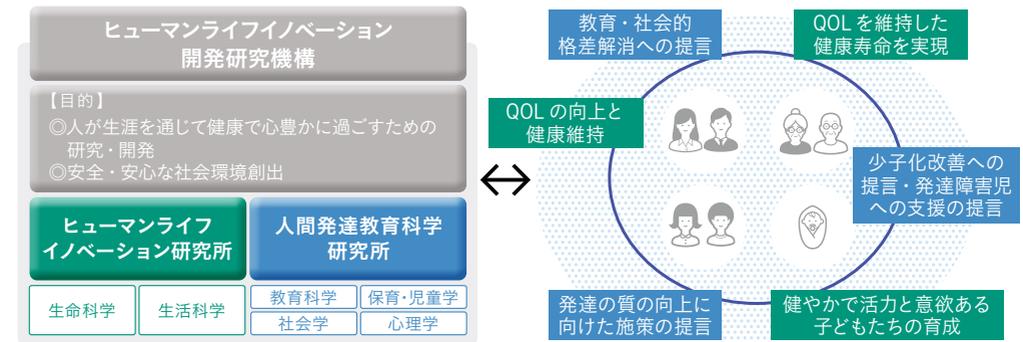
保育の質の向上や教育格差解消を目指した研究と教育カリキュラムの開発

- 保育環境研究、教育格差研究、養育環境と子どもの発達に関する長期追跡研究
- 子育て中の親のペアレンティングやワークライフバランスに関する研究
- 中高年期の社会的格差に関する研究

「健康支援・教育プログラム」の開発と実践研究

- 発達障害、炎症性疾患、生活習慣病の3領域について、年齢段階に即したプログラムを開発

「こころ」と「からだ」の両側面から研究を展開



その他教育研究を支援するセンター群

全学教育システム改革推進本部	教学IR・教育開発・学修支援センター 外国語教育センター リーディング大学院推進センター		
国際本部	国際教育センター グローバル協力センター		
研究・産学連携本部	教育研究部門	ソフトマター教育研究センター 文理融合 AI・データサイエンスセンター	
	研究推進部	基盤部門	情報基盤センター 共通機器センター ラジオアイソトープ実験センター 動物実験施設
		社会連携部	湾岸生物教育研究センター サイエンス & エデュケーションセンター ライフワールド・ウオッチセンター
	イノベーション推進部	リエゾン・URAセンター	
グローバル人材育成・男女共同参画推進本部	学生・キャリア支援センター		

世界の大学と協定を結び交流を深める

お茶の水女子大学では、交換留学制度、海外語学研修及び多くの海外派遣プログラムを提供し、協定校などへの海外派遣を支援しています。

協定校：32カ国・地域82校（2020年12月現在）

地域	国・地域数	協定校数
アジア	6	27
中東	2	2
アフリカ	1	2
北米	2	11
南米	1	1
オセアニア	2	2
ヨーロッパ	18	37
合計	32	82



海外語学研修等

- ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）
- ハル大学（イギリス）
- カリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ）
- マンチェスター大学（イギリス）
- 梨花女子大校（韓国）他

海外派遣生対象の経済支援制度

- 交換留学・短期留学等の留学形態や期間別の大学独自の給付型奨学金
- 上記以外に文部科学省、日本学生支援機構、地方自治体及び民間財団等による給付型奨学金もあります。

世界各国から外国人留学生を受入れ

協定校からの交換留学生を含め、大学院生を中心に、世界各国から学生を受け入れています。

出身国・地域別留学生数：28カ国・地域（2020年5月1日現在）

地域	学部生	大学院生	学部研究生	大学院研究生	日本語・日本文化研修留学生	交換留学生	計(人)
アジア	9	142	24	5	4	3	187
中東	0	2	0	1	0	0	3
アフリカ	0	1	0	0	0	0	1
北米	0	0	0	0	0	0	0
中南米	0	0	0	0	0	0	0
ヨーロッパ	4	8	0	4	2	7	25
オセアニア	1	0	0	0	0	0	1
合計	14	153	24	10	6	10	217



外国人留学生対象の経済支援制度

- 授業料免除・徴収猶予制度
 - 本学独自の給付型奨学金
- 上記以外に文部科学省、日本学生支援機構、地方自治体及び民間財団等による給付型奨学金もあります。

外国人留学生対象のサポート体制・イベント等

- 国際学生宿舎
- 個人チューター
- 宿舎メンター
- 相談室チューター
- インターナショナル・デー
- サマープログラム
- 日本文化教室
- 歌舞伎鑑賞教室
- 国際交流の集い

多岐にわたる国内での交流

国内大学との交流協定

単位互換の協定だけでなく、一部の大学では教員の人事交流も実施。他大学での学びから、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を期待しています。

国内 交流協定 22大学

- | | | |
|------------|-----------|----------------|
| ●奈良女子大学 | ●共立女子大学 | ●一橋大学 |
| ●東京工業大学 | ●東京女子医科大学 | ●筑波大学 |
| ●東京大学 | ●東京外国語大学 | ●芝浦工業大学 |
| ●総合研究大学院大学 | ●東京都立大学 | ●慶應義塾大学 |
| ●日本女子大学 | ●東京医科大学 | ●情報セキュリティ大学院大学 |
| ●名古屋市立大学 | ●学習院大学 | ●早稲田大学 |
| ●東京芸術大学 | ●北里大学 | |
| ●中央大学 | ●東京海洋大学 | |
- 2020年12月現在（締結年月日順）

地域連携

地域住民の方々への公開講座の実施だけでなく、都内や近隣の県内の小学校や中学校、高校への教育支援・学習指導補助なども実施しています。また、文京区や北区、川口市など近隣の自治体との相互協力協定を締結し、教育支援等を行っています。さらに本学湾岸生物教育研究センターのある千葉県館山市とも相互交流協定を締結し、教育活動を通じた連携を行っています。

被災地復興支援

東日本大震災や熊本地震で被災した県や市町村の教育委員会と、児童生徒の育成や地域社会の復興・発展をめざした包括的連携協定を締結し、多様な取組を継続的に行っています。被災地の小・中学校等では理科の観察・実験が困難であるために、限られた環境でも理科の実験・観察ができる実験教材の開発・提供や出前授業等の授業支援及び、理科教員研修を実施しています。全国の教育委員会や学校と連携して、今後災害が起きても実験・観察をあきらめなくてよい環境づくりを行うとともに、2018年7月豪雨（西日本豪雨）・北海道胆振東部地震等の被災地への緊急支援も行っています。

女性リーダー育成

福井県と女性リーダー育成のための相互協力協定を締結しており、県が2012年度から実施している「未来きらりプログラム」に本学が実施している女性リーダー育成のノウハウを活用し、県内の企業の女性がキャリアアップを目指すためのプログラムへの協力を行っています。2017年1月には株式会社ブリヂストンと女性リーダー育成のための協力推進に関する協定を締結し、2019年4月にはこの協定を基にした「未来起点プロジェクト」を発足させました。2018年10月には社会連携講座・女性活躍促進連携講座を立ちあげ、連携企業と学生の協働で女性活躍を促進するための課題を抽出・解決する講座を運営しています。

全学体制で男女共同参画を推進

お茶の水女子大学では、2004年4月に女性支援室を、そして2011年4月には男女共同参画推進本部を設置し、教育研究機関として男女共同参画社会の実現を促進することを目的として学長のリーダーシップのもと教育研究機関における環境づくりに取り組んでいます。本学の女性研究者支援事業はCOSMOS (Career Opportunity Support Model from Ochanomizu Scientists) と呼称され、学内外に広く浸透しています。

また、創立以来140年以上にわたって蓄積してきた女性人材育成の実績やノウハウに基き、教育研究機関において働きやすい雇用環境を構築する方法についての検討・検証を行い、雇用環境の自己評価指標として、「お茶大インデックス」を策定、これを活用した雇用環境整備の手順をまとめた「COSMOS Work Book」を作成し、全国のみならず、海外の教育研究機関への発信も行っています。

このような本学の取り組みは、国内外から広く評価されており、外部機関からも多くの問い合わせや訪問・視察をいただいています。

「心遣い」「知性」「しなやかさ」を理念とした女性リーダーの育成とダイバーシティの推進



本学における女性リーダーの育成は、140年以上にわたる女子高等教育の蓄積をもとに行われています。2008年には校歌「みがかずば」をモチーフとした「migakazuba リーダー育成理念」を策定してリーダー育成の理念を明文化し、女性のリーダーシップを育成する「お茶大モデル」の開発・提案に努めており、その一環として2014年度から企業等で管理職に就くことを目指す女性を対象にした生涯教育講座「お茶大女性リーダー育成塾：徽音塾」を開講しています。また、2010年度より男女を問わず研究者本人または配偶者の妊娠中や出産後、親族の介護、看護に携わる学内研究者へ研究補助者を配置する一時支援の制度を開始し、多様な働き方が可能な雇用環境作りを目指した取り組みを行っています。本学のこのような取り組みが評価され、2018年度には東京都女性活躍推進大賞（教育部門）を受賞しました。

本学は、ダイバーシティが尊重される職場環境でありつづけるとともに、今後も21世紀型のワークライフバランスを提案していきます。

一つのキャンパスに、乳幼児教育から大学院教育の機能を持つ

お茶の水女子大学は附属幼稚園・小学校・中学校・高等学校、大学そして大学院が一つのキャンパスに揃っています。さらに国立大学法人として初めての附属学校部所属となる乳児保育施設（いずみナースリー）と職員宿舎を学内に併設しています。

女性のライフスタイルを視野に入れた育児と学習・研究・教育・仕事との両立やワークライフバランスの実現が可能な環境が設けられています。

国際交流留学生プラザ (Hisao & Hiroko TAKI PLAZA)

国際交流・地域貢献・世代交流（同窓会、教職員、学生）の3つの交流や集いの拠点として、「国際交流留学生プラザ」が2019年3月にオープンしました。2018年5月からの建設にあたり、未来開拓基金への滝久雄氏（株式会社ぐるなび・株式会社NKB創業者、本学名誉博士）からのご寄附、同窓会（桜蔭会、作楽会、鏡影会、茗鏡会、ちぐさ会）からのご寄附をはじめとして、教職員を含む多くの方々からのご支援を頂きました。設計については、自然豊かなキャンパスとの調和を含めて、隈研吾建築都市設計事務所によって進められました。国際交流施設と、同窓会活動の拠点としての「同窓会コモンズ」を併設した建物となります。

お茶の水女子大学の新たなシンボルとして、多くの方々に利用していただくことが期待されています。



国際交流留学生プラザ (外観)



国際交流留学生プラザ (内観)

図書館

附属図書館では一般教養書から学術専門資料まで全学で約70万冊の図書を所蔵し、1万1千タイトルの電子ジャーナル、語学学習用の教材や視聴覚資料、ジェンダー研究や幼児教育関連資料など、本学特有の貴重な資料群を提供しています。

附属図書館は、1階がくつろいで過ごしたり、グループで話し合いながら学習できるコモンズフロア、2階が静かな環境で資料の閲覧や学習ができるラーニングフロアとなっています。「時間と空間を超えて共に学び共に成長する」場として学生に活用されています。



図書館 (外観)



図書館 (内観)



- | | | |
|------------------------|------------------------|---------------|
| 1 大学本館 | 14 文教育学部 1 号館 | 26 茶室 (芳香庵) |
| 2 大学講堂 (徽音堂) | 15 共通講義棟 1 号館 | 27 大学体育館 |
| 3 総合研究棟 | 16 共通講義棟 2 号館 | 28 附属幼稚園 |
| 4 生活科学部本館 2 | 17 共通講義棟 3 号館 | 29 附属小学校 |
| 5 お茶大アカデミック・プロダクション研究棟 | 18 大学食堂 | 30 附属中学校 |
| 6 屋外エレベーター棟 | 19 保健管理センター | 31 附属高等学校 |
| 7 ラジオアイソトープ実験センター | 20 (学生寮建設予定地) | 32 国際交流留学生プラザ |
| 8 理学部 1 号館 | 21 弓道場 | 33 学生会館 |
| 9 理学部 2 号館 | 22 文教育学部 2 号館 | 34 いずみナーサリー |
| 10 理学部 3 号館 | 23 Student Commons | 35 大塚宿舎 |
| 11 情報基盤センター | 24 課外活動団体談話室 | 36 こども園 |
| 12 附属図書館 | 25 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 | |
| 13 学生センター棟 | | |



1 大学本館

正門、大学講堂、附属幼稚園とともに国の登録有形文化財に登録された歴史的建造物です。表現主義風のカーブでまとめられたパラペット頂部、左右の2連窓と白い窓台、前面の植物文様のレリーフなど、昭和初期の建築デザインを今に残す貴重な資料となっています。



2 「徽音堂」(大学講堂)

大学本館と同年に、それと一体化する構造で建設され、日々の教育・研究と、学舎で学び、研究し、働く人々が集う機会を、有機的に結びつけたものです。大学講堂は「徽音堂(きいんどう)」と呼ばれ親しまれていますが、この名称を記した額は、いまま舞台上に掲げられています。

附属学校等

キャンパス内には、附属高等学校、中学校、小学校、幼稚園、ナーサリー、こども園が併設されています。



附属高等学校

附属高等学校は、1882年、当時の東京女子師範学校附属として創立されました。国立大学附属の中で唯一の女子校。1学年3学級、全体で9学級あります。お茶の水女子大学に附属した高等学校であることの特徴を生かし、社会に有為な教養高い女子の育成に努めています。



附属中学校

学制改革により、東京女子高等師範学校附属高等女学校から分離独立し、1947年、東京女子高等師範学校附属中学校として発足。現在1学年一般学級3学級、帰国生徒教育学級1学級で構成し、全体で12学級あります。充実した学習環境の中で、新しい教育の開発研究を行っています。



附属小学校

附属小学校は、1878年、東京女子師範学校附属練習小学校として開校されました。教育目標は「自主協同」で、開校当時から今日まで受け継がれています。1学年3学級で、第4学年から帰国児童教育学級が加わり学年4学級となります。



附属幼稚園

附属幼稚園は、1876年、東京女子師範学校附属として開園されました。日本で最初にできた官立幼稚園であり、2008年、園舎は登録有形文化財に登録されています。起伏に富んだ園庭、木のぬくもりに包まれる園舎等、豊かな環境に自らがかわる主体的な子どもの育成に努めています。



いずみナーサリー

いずみナーサリーは、6か月になる月の子どもから2歳児の通う、学内者(常勤・非常勤教職員及び学生)のための保育施設です。子どもたちは、大学内の自然に触れ、人・ものとの出会いを楽しみながら成長しています。また、学生とのふれあいの場、学びの場、乳児保育研究の場でもあります。



文京区立お茶の水女子大学こども園

東京都文京区から委託を受けて大学が運営を行っています。待機児童の解消と大学における教育研究活動の実践と成果の社会還元を目的とし、2016年4月に開園しました。遊び・人・家庭・地域・地球という5つのつながりを大切にし、認定こども園の在り方について実践を通して積極的に発信しています。